

センター名	あさぎり・おおくら総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	朝霧・大蔵

区分	内容			
改善したい項目 (評価指標の該当項目)	①	指標項目	_6_生活支援体制整備	
		目指す評価	④センター内の多職種・協議体と地域における高齢者のニーズや社会資源について協議をし、資源開発を含む地域づくりが実質的に進んでいる。 【現状評価 ③ → 目指す評価 ④】	
		【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因	住民が地域の困りごとを自分事と考え、支え合い活動を開発していくことへの意識啓発が十分でない。	
	②	指標項目	_8_認知症総合支援	
目指す評価		④認知症支援に携わるボランティアの定期的な養成など認知症支援に関する介護保険外サービスの整備を行い、認知症の人等への支援に繋がっている。 【現状評価 ② → 目指す評価 ④】		
	【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因	認知症サポーターや認知症の勉強会への参加者が、認知症の方の地域での役割を持った生活を考え、自分たちが実践できることを実践できる。		
目指す評価を達成するために実現したい姿・状態【☆】 (現在の未達成要因を踏まえて)	①	センターが考える地域課題の仮説を協議体に投げかけ、住民が考える困りごととのすり合わせを行う。共有した地域課題を住民が自分事と考え、解決している状態。		
	②	住民が認知症に対する正しい知識を持ち、能動的に認知症の方の地域での生活支援や見守り方法を検討できる。		
上記【☆】達成のための改善計画	年間の取組【概要】	①	センターが考える地域課題について、まちなかゾーン会議、まち協、地区社協、自治会などの小地域団体に投げかけ、共有し、具体的に解決していく方法を協議する。	
		②	サポーター養成講座や勉強会、SOSネットワーク模擬訓練などを実施し、認知症の正しい理解とともに、本人の思いに寄り添える視点が広まるよう働きかける。	
	具体的な取組計画【事業プラン】	①	上半期	前年度からセンターが考える地域課題の仮説を投げかけているまちなかゾーン会議で、住民や専門職と共に、引き続き地域課題を協議し、重点的に取り組む課題を整理・抽出する。
		下半期	整理・抽出した地域課題について、センター内多職種や、課題に応じた関係機関と連携する。まち協、地区社協、自治会など小地域団体に地域課題を投げかけ、意見を集約し、まちなかゾーン会議に持ち帰って共有し、具体的な支え合い活動を検討していく。	
②	上半期	普及啓発を行う為にキャラバンメイト交流会を実施し、認知症サポーター養成講座開催をどう働きかけるか検討する。学校関係や自治会単位への働きかけを実施。基本編から本人おもしろ編、ステップアップ編を継続的に受講できるように働きかける。		
	下半期	キャラバンメイトとともに、サポーター対象にSOSネットワーク模擬訓練を実施し、具体的な対応を体験してもらうことで地域での実践に繋がりがりやすいようにする。		

2021年度 運営改善計画

センター名	きんじょう・きぬがわ総合支援センター
運営主体	明石市社会福祉協議会
担当中学校区	衣川・錦城

区分		内容		
改善したい項目 (評価指標の該当項目)	①	指標項目	_6_生活支援体制整備	
		目指す評価	③住民に身近な圏域におけるニーズや課題を、関係者等が集う会議や交流会を活用して、聴き取りを行い把握している。 【 現状評価 ② → 目指す評価 ③ 】	
	【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因	住民に身近な圏域におけるニーズや課題について、分野別計画やレベル3, 4のケースから把握・分析は行っているが、その内容と生活支援体制整備事業の日常的な業務や他機関と連携する中で得られる情報を、センター内で共有・見える化している段階であるため。また、地域住民への聞き取り調査を一部実施しているがその途中であるため。		
	②	指標項目		
目指す評価		【 現状評価 [] → 目指す評価 [] 】		
目指す評価を達成するために実現したい姿・状態【☆】 (現在の未達成要因を踏まえて)	①	地域住民のニーズや課題を、4職種全員がそれぞれの日常的な業務や他機関との連携の中で情報収集できる。。高齢化率、介護保険認定者割合や内訳などのデータや地域特性からその地区のニーズや課題を把握できる。特に、地域のキーパーソンへの聞き取りは4職種のチームで取り組む。 最終的には生活支援コーディネーターから見た地域課題の抽出と、3職種からみた個別ケースを通じた地域課題の抽出が融合でき、地域住民の生活課題として取組計画が立てられるようになる。		
	②			
上記【☆】達成のための改善計画	年間の取組【概要】	①	4職種で協力して地域住民にニーズや生活上の困りごとを聞き取れる。そのためにどこに行けばよいかを把握している。聞き取った内容をセンター内で共有できる。生活支援コーディネーターがまとめる。地域で共有するための地域への働きかけについて4職種で意見交換をし、生活支援コーディネーターが計画を取りまとめる。	
		②		
	具体的な取組計画【事業プラン】	①	上半期	生活支援コーディネーターが聞き取り調査の内容をまとめる。4職種でニーズと課題を整理する。生活支援コーディネーターが地域住民と共有できるよう見える化(マッピングも含む)を行う。4職種で地域のキーパーソンと共有する。
		下半期	地域のキーパーソンと共有したニーズや課題に対し、センターからの働きかけ(専門的ななげかけ)をして地域住民と一緒に解決方法を考える。	
②	上半期			
	下半期			

2021年度 運営改善計画

センター名	にしあかし総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	望海、野々池

区分	内容			
改善したい項目 (評価指標の該当項目)	①	指標項目	_2.権利擁護	
		目指す評価	④消費者被害に関し、センターが受けた相談内容について、消費生活に関する相談窓口または警察等と連携の上、対応し、解決に繋がっている。 【現状評価 ③ → 目指す評価 ④】	
		【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因	消費者トラブルの注意喚起は行ったが、未然防止の取り組みの視点が弱く住民に対して我がこととして消費者被害の現状を捉えてもらえるような働きかけが出来なかった。	
	②	指標項目	_2.権利擁護	
		目指す評価	③成年後見制度の市長申立て及び本人・親族申立ての支援を行っている。 【現状評価 ② → 目指す評価 ③】	
		【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因	金銭管理にまつわる相談は昨年度22件あった。その内、後見類型が約半分、保佐類型が約3割であった。また7割の方にケアマネジャーがついていたが、4割の方に負債があり、住まいの問題を抱えた方が3割いた。このことから、ケアマネジャーが金銭管理を含めた総合的なアセスメントが出来ておらず、必要なタイミングでセンターへの相談に繋がっていない。また、センターがケアマネジャーに金銭管理の制度の周知ができていない。	
②	指標項目	_8.認知症総合支援		
	目指す評価	②認知症支援に携わるボランティアの定期的な養成など認知症支援に関する介護保険外サービスの整備を行っていないが、準備に着手している。 【現状評価 ② → 目指す評価 ③】		
	【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因	住民が判断能力のある時から自分がどう生きていきたいのか我がこととして捉えられるよう、センターが意思決定支援の働きかけができていない。		
目指す評価を達成するために実現したい姿・状態【☆】 (現在の未達成要因を踏まえて)	①	専門職や地域住民が連携して、消費者トラブルの未然防止に向けた『騙されない地域づくり』を目指す。		
	②	ケアマネジャーが金銭管理を含めた総合的なアセスメントができるようになり、金銭管理の制度を理解し、早期に必要な支援に繋ぐことができる。		
	③	住民が自分の将来を我がこととして捉えた人生設計ができるようになる。		
上記【☆】 達成のための改善計画	年間の取組【概要】	①	野々池地区では「耳より講座」を実施し、専門職と住民が連携し、消費者トラブルの寸劇を行い、住民に消費者トラブルの予防的啓発を行う。 望海地区では、小学校区で毎月開催している「健康教室」の開催時に、兵庫県警や消費者センターの情報や地区の現状を住民とともに把握、検討し、各自ができる予防法を事例を通じて考える場や機会を設ける。	
		②	ケアマネジャーが金銭管理のアセスメントのポイントや自立支援の意識をもち、金銭管理の制度について正しく理解してもらえるように周知を行う。	
		③	サロン等にて住民が自分の将来を我がこととして捉えられるようにACPやエンディングノート、任意後見制度の啓発を行う。	
	具体的な取組計画【事業プラン】	①	上半期	野々池地区では、第2回サービスゾーンまでに消費者トラブルの明石の現状を伝え、予防についての意識啓発を行う。 望海地区では、小学校区ごとの「健康教室」開催時に花園サポーティングファミリー、貴崎よっといで、藤江カフェなどで予防啓発を実施する。
			下半期	野々池地区では、秋以降に「耳より講座」を行い、専門職と住民が連携し消費者トラブルの寸劇を行うことで、住民に対し消費者被害の未然防止に繋がるように啓発を行う。 望海地区では、上半期開催をふまえ、重点区域を地区で設定し、具体例を健康教室や民生児童委員協議会の場を利用して注意喚起や啓発活動を実施する。
		②	上半期	夏頃までにセンターがケアマネジャーとほっこりミーティングにて、金銭管理のアセスメントの視点や判断能力が低下する前に利用者に口座をまとめたり、引き落としに変えるなど金銭管理に特化した自立支援の視点を伝え、利用者への支援につなげてもらう。
下半期	秋以降にセンターがケアマネジャーとほっこりミーティングにて金銭管理の制度の啓発を行い、利用者が金銭管理が難しくなってきたと判断するアセスメントのポイントを伝える。			
③	上半期	秋までにサロンなどでACPやエンディングノート、任意後見の啓発を行う。		
	下半期	秋以降にアンケートを実施して、住民の意識変容を確認したり、個別ケースの相談会を開催する。		

2020年度 運営改善計画

センター名	おおくぼ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	大久保、江井島、大久保北、高丘

区分	内容	
改善したい項目 (評価指標の該当項目)	①	<p>指標項目</p> <p>4_地域ケア会議</p> <p>④複数の個別事例から地域課題を明らかにし、地域課題を解決するための政策を、市等に提言している。</p> <p>【現状評価 ③ → 目指す評価 ④】</p> <p>【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因</p> <p>まちなかゾーン会議及び個別ケース検討会議(地域ケア個別会議)から地域課題は抽出されているが、専門部会等の専門職を中心とする地域ケア推進会議の実施状況や内容を十分に把握することができていないため、専門職や行政が中心となって解決すべき地域課題について提言が行えていない。</p>
	②	<p>指標項目</p> <p>目指す評価</p> <p>【現状評価 → 目指す評価】</p> <p>【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因</p>
	①	<p>センターが関わる個別ケース検討会議(地域ケア個別会議)やまちなかゾーン会議を含む地域支援からの課題について、センター職員が課題抽出から具体策の検討までの検討項目をシートにまとめるなど具体化し、住民に共有すべき地域課題もしくは専門職中心に検討を行うべき地域課題を明確にでき、住民と共有すべき地域課題は地域住民と共有し、専門職中心に検討するべき地域課題のうち広域での解決が必要なものについては専門部会等へ提言できる。</p>
	②	
上記【☆】 達成のための改善計画	年間の取組【概要】	<p>① 前年度抽出し検討した地域課題と解決に向けた具体的取り組みの計画について、日常生活圏ごとに4職種とセンター長で再確認し、必要に応じて計画を修正する。専門職が広域的に検討する必要がある地域課題については専門部会等に提言する。センターで取り組むべき課題について、上半期は計画に従って対応し、中間評価と修正を行う。下半期は修正後の計画をもとに活動し、年度末までに課題抽出と具体的取り組みを検討し、次年度計画の立案と専門部会等への提言を行う。</p> <p>②</p>
	具体的な取組計画【事業プラン】	<p>①</p> <p>上半期 4月 前年度の検討内容を確認、必要があれば取り組み計画を修正 5月～7月 計画に従って活動、専門部会等の内容について確認する 8月 上半期の評価、下半期に向けての計画の修正(課題抽出から具体策の役割分担まで)を行い、専門職や行政を中心に広域的に検討が必要な課題については専門部会等に提言する</p> <p>下半期 9月～1月 上半期の評価をふまえ修正した計画に基づき活動、専門部会等の内容について確認する 下半期の評価、次年度に向けての計画の修正(課題抽出から具体策の役割分担まで)を行い、専門職や行政を中心に広域的に検討が必要な課題については専門部会等に提言する</p> <p>②</p> <p>上半期</p> <p>下半期</p>

2021年度 運営改善計画

センター名	うおずみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	魚住東・魚住

区分	内容			
改善したい項目 (評価指標の該当項目)	①	指標項目	_3_包括的・継続的ケアマネジメント支援	
		目指す評価	④担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者(医療機関や地域における様々な社会資源等)との意見交換の場を設け、担当圏域における介護支援専門員が連携における課題の共通認識をもち、その解決に向けて活動している。 【現状評価 ② → 目指す評価 ④】	
		【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因	圏域内の介護支援専門員の交流と学習の場(ケアマネさんいっしょい)はあるが、多様な関係機関・関係者との意見交換の場を企画出来ておらず、連携課題の共通認識が持っていない。	
	②	指標項目	_7_在宅医療・介護連携	
目指す評価		③医療関係者と合同の講演会・勉強会等に参加している。 【現状評価 ① → 目指す評価 ③】		
【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因		2020年度はコロナの影響により合同の研修会の企画ができなかった。		
目指す評価を達成するために実現したい姿・状態【☆】 (現在の未達成要因を踏まえて)	①	多様な関係機関との連携をスムーズに行えるよう様々な機関との情報交換の場を設ける。		
	②	地域の医療機関と顔の見える関係を構築し、学習会等を通じて圏域内における在宅医療介護連携がスムーズに行える。		
上記【☆】 達成のための改善計画	年間の取組【概要】	①	圏域内の介護支援専門員、医療機関の医療ソーシャルワーカーとの意見交換、学習の場を設定する。	
		②	地域の医療機関に対し、在宅医療連携窓口の周知、参加職種の互いの役割周知を行い、圏域内の在宅医療介護連携がスムーズに行えるような関係づくりを行う。	
	具体的な取組計画【事業プラン】	①	上半期	医療機関(医療ソーシャルワーカー)に対し介護支援専門員との研修に参加してもらえるよう声をかける
			下半期	「ケアマネさんいっしょい」にて研修会を開催し互いの役割周知、課題の抽出を行い、解決に向け連携を強化する。地域で解決が難しい課題の抽出も行っていく。
		②	上半期	地域の医療機関を4職種で巡回訪問し、センターの役割機能と、在宅医療連携窓口の周知徹底を図る。
			下半期	Zoomにて医療機関を含む多職種連携学習会を年1回実施する。

2021年度 運営改善計画

センター名	ふたみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人 明石市社会福祉協議会
担当中学校区	二見中学校区

区分		内容	
改善したい項目 (評価指標の該当項目)	①	指標項目 _6_生活支援体制整備 ③協議体が地域資源の開発に向けた具体的取組(地域ニーズ、地域資源の把握等)を行っている。 【現状評価 ② → 目指す評価 ④】	目指す評価 住民間の交わりに重点を置いた「地域資源の把握」と、住民同士の互助を生む「早期発見の環境づくり」を進めていくためのまちづくり協議会や自治会等と顔の見える関係はできている。しかし、地域が課題を認識し、主体的な取り組みを行う、気運づくりに工夫が足りなかった。
	②	指標項目	目指す評価 【現状評価 [] → 目指す評価 []】
	【現状分析】 目指す評価が未達成である理由・要因		
目指す評価を達成するために実現したい姿・状態【☆】 (現在の未達成要因を踏まえて)	①	地域の自主的な取り組みを応援していくため、介護予防や健康増進、権利擁護、認知症対応などセンターが持つ専門性を活かした情報提供やアドバイスを行える。また、主体的な取り組みに対する支援(人、もの、助成金など)が行える。	
	②		
上記【☆】達成のための改善計画	年間の取組【概要】	①	○介護予防等出前講座や座談会を通じて、地域課題の把握と解決に向けたアドバイスを行う。 ○広報紙やビデオレターを活用した、事例紹介やその他の情報を提供する。 ○地域課題の見える化(マッピング)により協議体と課題共有し、解決に向け主体的な取り組みにつながるよう働きかける。
		②	
	具体的な取組計画【事業プラン】	①	上半期 ○まちづくり協議会や自治会等地域の会合を通じて介護予防等出前講座や座談会のニーズを把握する。 ○広報紙やビデオレターを活用した情報提供により、地域課題を考えるきっかけづくりを行う。 ○地域からの情報収集とあわせて、個別相談事例から地域課題を集約する。
		下半期 ○ニーズに応じた介護予防等出前講座や座談会を開催する。 ○広報紙やビデオレターを活用した情報提供により、地域課題を考えるきっかけづくりを行う。 ○集約した課題をもとに意見交換し、各地域における合意形成に応じ、課題解決に向けた取り組みへの支援を行う。	
	②	上半期	
		下半期	